

令和 7 年度 学校評価書 ( 実施段階 )

福岡県立 福島 高等学校

76

<p><b>スクール・ミッション</b> (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>「正しく、強く、美しく生きる」という精神を胸に、地域を担う人材を育成する学校 多様な個性を持つ仲間との体験的な学びを通して、地域の中で正しく、強く、美しく生きる力を身に付け、社会に貢献する高い志を持ち、よりよい社会の実現のために行動できる人材を育成します。</p>	
<p><b>スクール・ポリシー</b> (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・獲得した知識・技能や思考力・判断力を発揮して物事を多角的・俯瞰的に捉え、課題を見出せる生徒</li> <li>・他者と協働し、創造的に課題解決に挑み続けることができる生徒</li> <li>・自他を認め、社会に貢献する志を持ち、よりよい社会の実現のために行動できる生徒</li> </ul>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎から応用へと確かな学力を身に付ける</li> <li>・専門教科における実学・実習の重視による高い専門性</li> <li>・教科横断的・課題解決型の授業実践と学科間連携を通して多様な学びの保障</li> </ul>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神的自立・成長を図り、人間性豊かで、規範意識の涵養に努める人</li> <li>・継続的かつ意欲的に学習し、積極的に行動できる人</li> </ul>

学校運営計画(4月)

学校運営方針			評価 (総合)	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
<p>[成果] 生徒が生き生きと活動する場を提供し、生徒が主体的に取り組むよう様々な仕掛けをし続けている成果あり。総合ビジネス科と生活デザイン科については科の特色や成果を積極的にアピールできている。普通科は独自の取り組みを始めたことで、生徒が主体的に学習する態度が定着してきている。</p> <p>[課題] HPやSNSを積極的に活用する等、より効果的な広報活動に取り組む。多様な進路希望を実現させることができるという点を一層充実させ、強く打ち出す。学科間連携による、独自の教育活動をより充実させる。「生徒を主語にした学校作りプロジェクト」を活用し、個別最適な学び、協働的な学びの実現を可能にする授業改善を実施する。生徒に確かな学力を付けさせ、進路希望を実現できる学校としての評価を得られるよう、教育内容を充実させる。</p>	<p>「自ら考え、自ら判断し、チャレンジする」態度の育成及び他者と協働し課題解決に挑む態度の育成</p>	<p>良質かつ本質的な問いかけや個に応じた指導を通して、「自分には何が できるか」と主体的に考え、判断し、行動に移す態度及び他者と協働し 課題解決に挑む態度を全ての教育活動を通して育成する。</p>	<p>A</p>	
	<p>「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」及びICTを有効活用した授業改善の推進</p>	<p>生徒に基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、教員は個別最適な学 び、協働的な学びにつながる授業を実践することにより、生徒の「思考 力」「判断力」「表現力」の育成を図るとともに自ら学ぶ姿勢を身に付け させる。ICTの有効活用及び授業と評価方法の改善により、指導と評価の 一体化を図ることで、生徒の個性や能力を引き出し、生徒の第一希望進 路の実現を目指す。</p>		
	<p>学科間連携の強化、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組、及び関係機関との連携強化による地域に開かれた 学校づくり</p>	<p>学科間連携の学校設定教科・科目を充実させるとともに、学科の特徴や 強みを生かした活動を有機的に連携させる。本校の特色ある教育活動 を通して、生徒により広い世界を体験させるとともに、地域社会との連携 強化を図り、地域に開かれた学校づくりを推進する。</p>		
	<p>生徒の人権意識の向上及び安心・安全な学校づくり</p>	<p>人権教育を推進することにより、生徒の人権意識を向上させ、違いを認 め合い、自分自身と他者を大切にする心豊かな人間性を育む。ICTの積 極的活用を通して、生徒理解や個別最適化された授業の実践及び業務 の効率化を推進し、生徒と教員が心身ともに健康で安心して過ごせる学 校づくりに努める。</p>		

自己評価							学校関係者評価								
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見						
教育推進部 (教務課)	確かな学力の修得 (基礎的・基本的な知識・技能の修得)	指導の個別化、学習の個別化につながる授業改善(必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材の工夫等)を推進する。	(学習時間調査11月) 1年78、2年98、3年117(分/1日) 2、3年は過年度及び前回(9月)より増	A	B	B	学習については、勉強が分かるように努力している生徒(85.0%)の個別最適な学びが促進できるよう、授業改善及び家庭学習の効果的な在り方を見直す。また、集中講座及び補習については、今年度は専門学科の実施期間を確保し、内容を充実させた。今後は希望者数の増加が課題である。	A	集中講座及び補習について、専門学科の実施期間が確保され、充実した内容のオンライン授業やゼミ方式を導入して、創意工夫が図られている。						
		各科の生徒の特性・学習進度・学習到達度に応じて、知識・技能、技術の向上を図り、集中講座及び補習の内容を充実・発展させる。		B											
		生徒が自己調整しながら学習を進める力を身につけさせるために、自己研鑽の日や学習時間調査(年4回)を活用する。		B											
	本校独自の教育活動の充実	個別最適な学びと協働的な学びを実践し、各科の特性を生かして学科間連携教科・科目の充実を図る。	(学校生活アンケート8月) 「学校生活(勉強・部活動・資格)」に目標がある187.9%、「もっと勉強が分かるようになろうと努力している」185.0%	A	B	B				各教科、総探、学科間連携科目等において、より一層地域連携を強化した学びを展開できた。次年度は、次期学習指導要領の情報共有しながら各教科と共通理解を図る。また、現行の教育課程について3年間の改善点を集約することで、長期的な視点を持って今後の教育課程の方向性を見据え、特色ある教育活動の充実を図る。	A				
		各教科が育成を目指す資質・能力を明確にし、評価方法を検討して適正な評価を行い、評価の妥当性、信頼性を高める。	B												
		観点別評価の改善により、授業と評価の一体化を図り、多様な資質を持つ生徒を多面的に評価する。	B												
	生徒が主語(中心)になる「総合的な探究の時間」の授業づくり	単元毎に育成する力を明確にするとともに、指導体制を整備して、生徒自ら探究活動ができる環境づくり(探究プログラム導入)を設定する。	/	A	A	A							・今年度より、第一学年においてTimeTact(オンライン学習)を導入し効率的な学習を進めることができた。しかし、本校生徒の実態に即したカリキュラムになっていない部分があった。来年度に向けて充実したものにしていく。 ・今年度より普通科2・3年合同ゼミ方式を採用。少しずつではあるが、生徒自らの課題にチャレンジしている姿を見ることができた。	A	
		推進委員会を中心として「総合的な探究の時間」を円滑に運営する。(早めの計画立案、密な連絡調整)		B											
		自ら学びたい分野を選択し、(普通科2・3年ゼミ方式採用)地域、大学の外部機関との連携を強化して、探究活動を充実させる。		A											
教育推進部 (入試・広報課)	本校の魅力が伝わる組織的な広報活動	進路相談事業や体験入学、イブニング体験ツアーにおいて、生徒主体の魅力あるプレゼンを実施する。	体験入学のアンケートより、同じような学科説明があったので初めの説明は、学校行事等のみを行ったほうが良いとの意見があった。	A	A	A	・進路相談事業では、生徒主体による体験型ブースを設け、各学科の特色を生かした紹介ができた。体験入学においては、同じ説明が繰り返される傾向があるので始め説明を来年度は簡素化した。イブニング体験ツアーを今年度3回実施し、きめ細かな対応ができた。	A	進路相談事業では、生徒主体による体験型ブースの設置やイブニング体験ツアーの実施など、魅力的な広報活動が実施されている。						
		出前授業や学校説明会に積極的に出向き、本校の魅力を発信する。		A											
		学校HP、SNS等の迅速な更新を行い、本校の魅力を伝えるとともに、本校教育活動への理解を図る。		B											
	効果的な広報活動のための情報収集	広報活動の分析を行い、中学生や中学生保護者に向けた広報活動を積極的に行う。	中学校PTA訪問アンケート(広川) 訪問の目的は、「学校の雰囲気」が最も多く、「概ね参考になった」との回答を得た。	A	A	A				・中学生と中学生保護者への広報活動として、各中学校に出向き、説明や体験授業を行い、本校の教育活動を紹介することができた。PTAから本校を訪問していただき、普段の本校生徒の様子を紹介ができた。SNSを利用した広報活動は今後も定期的に投稿して本校の良さを知ってもらう機会としていく。	A				
		新入生アンケートや2、3年生向けの満足度アンケートを行い、広報活動の改善に生かす。		B											
		中学校訪問を通して本校の魅力を発信しながら生徒の情報交換を行い、中学校との連携を図る。(拠点校、久留米地区、みやま地区)		A											
	計画的で協働的な業務の遂行	分掌会を定期的に開催し、全員が責任感を持ち、チームで業務に取り組む。	/	B	B	B							・各業務の事前準備を早期に始めて、時間をかけて進める必要があると感じている。 ・中学校訪問、進路相談事業、体験入学等、大きな行事については各行事毎にプロジェクトチームを編成して、他の分掌と協力関係を構築して体制を強化する。	A	
		他の分掌と連携を図りながら業務を進め、学校全体で入試・広報活動を行う体制を整え、効果的なアピールを行う。		B											
		各行事のスケジュールを確認し、担当割や準備物の共有を計画的に行う。		B											

キャリア教育部 (進路指導課)	キャリア教育の更なる充実による「夢を描き努力し続ける生徒」の育成	進路講演会や進路ガイダンス、上級学校・企業訪問、卒業生講話等を充実させ、進路意識の向上を図る。	振り返り／感想文	A	A	B	4月の進路講演会、各学年対象の進路ガイダンスなどを通して、生徒の進路意識を高める機会は作れている。希望進路が未定のまま入学・進級する生徒が多く見られることから、進路について考える機会を今後も提供する。次年度に向けて、Classiの学習ツールとしての機能を活用し、生徒が主体的に学習に取り組む体制を構築する。	A	各生徒の志望校に合わせた小論文指導や、就職・公務員希望者への特別講座など、きめ細やかな進路指導が図られている。		
		「Classi」を活用して学校行事や進路学習等の見通しと振り返りの場を設定し、進路や自己の生き方を考える一助とする。	B								
		ボランティア活動やふれあい看護体験、インターンシップ等の体験活動に積極的に参加を促すことで進路について考える契機とする。	A								
	第一志望の進路実現に向けた心構えの育成と資質能力の向上	小論文指導体制の強化とその指導の充実を図り、希望進路実現に必要な「読む力」「考える力」「書く力」を伸ばす。	/	B	B					B	小論文指導においては、先生方の協力のもと生徒それぞれの志望校に合わせて指導を行うことができた。年々小論文が必要な生徒が増えていることから、小論文指導を1・2年の早期から始める必要がある。就職・公務員希望者には校内での二者面談、外部講師による特別講座や面接指導等を計画的に進めることができた。
		3年生の希望者を対象とした放課後講座及び模試の実施・結果分析を通して、希望進路実現に必要な学力の向上を図る。		B							
		就職・公務員希望者を対象に、外部講師を招聘したガイダンスや特別講座、面接指導等を計画的に実施して、必要な能力を伸ばす。		A							
進路選択及びその実現をサポートする情報の収集と発信	「進路のしおり」の内容の充実を図り、進路選択やその実現に資する情報を早期に提供すると共に、進路指導へ有効に活用する。	/	A	B	B	「進路のしおり」は内容を見直し、必要に応じて加筆・修正を行った。進路委員には進路関係行事の司会や運営にも携わる機会を与え、集団の中での役割を自覚し、責任感を養うことができた。進路指導課会議を定期的実施し、意見交換・情報共有を行った。日頃から各学年との報連相を密にする。					
	「進路だより」の発行や進路冊子の配布の配布等の進路委員を中心とした組織的な取組を通して、進路への関心を向上させる。		B								
	進路指導課会議を定期的開催し、情報を共有するとともに組織的な進路指導の更なる充実を図る。		B								
キャリア教育部 (企画・研修課)	生徒の成長を促す効果的な行事の実施	各行事の計画を早期に立てることにより、柔軟に対応できるようにする。	振り返り／感想	A	A	A	行事の計画は、おおむね早めに他分掌と連携して計画することはできた。生徒の各行事への取り組み方に関しては、各行事の目的等を説明したうえで掲示してもらった。また、振り返りや感想については次年度に活かして計画を立てる。	A	ICT機器の効果的な活用により授業改善が図られている。教員間でのポータルや掲示板を活用した教材の共有については、更に効果的なものになるように取り組んでいただきたい。		
		教員や生徒に各行事の目的を明確にしたうえで実施する。	B								
		他分掌と綿密に連携をとり、充実した行事にする。	A								
	授業改善と図書館の活用	各教科でICTを活用した授業を行い、その教材をポータル等を活用して職員で共有する。	授業アンケートについてICTの活用が役に立っている生徒の割合がおおよそ90%	B	B					A	chromebookや電子黒板の利用などで、授業が分かりやすいと感じている生徒が多い。教材の共有が多くの職員で共有できるようにするために、ポータルや掲示板等を活用する。図書委員会をある程度は動かすことができたが、もっと多くの生徒が図書館の活動に関わるようにする方策を考える。
		校外研修の成果を全職員で共有できるようにして授業改善に活用する。		B							
		図書委員会を通して図書館の効果的な活用方法を考える。		B							
	「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」を活用した教育活動の充実	「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」に関する校内研修を実施する。	授業アンケートについて考えたことを表現したり、質問することがある。協働作業が楽しいと感じる生徒の割合がおおよそ90%	A	A					A	「生徒を主語にした学校づくりプロジェクト」のまとめの時期になり、生徒の主体的な活動による授業がある程度評価されている。教科を超えてどのような取り組みがされているかについて、全職員で情報共有できるようにする。
		研究授業や授業アンケートを活用して活発な授業改善を促す。		A							
		教育実践等を全職員で共有し教育活動の充実を図る。		B							

生徒育成部 (生徒指導課)	問題行動0・いじめの撲滅	いじめアンケートを実施し、教育相談委員会等による情報の共有を図り、学年・学校全体で対応する。	いじめアンケート・個人面談によりいじめと認定した件数:4件	A	A	講演会などで啓発しているが、最終的に生徒に規範意識を持たせたり、いじめの重大化を防いだりするのは、教員との面談や日常の声かけである。いじめの認定後、本人のケアをうまくできれば、居場所は失われない。来年度も、情報共有を密にし、多くの教員の目で生徒を育てる体制を作る。	A	教育相談については、アンケートの実施や個人面談、講演会など、情報共有や連携によっていじめの未然防止や早期発見・早期対応が図られている。
		規範意識育成の講習会実施及びDVD視聴等により正しい行動ができるように指導する。		B				
		SNSによるトラブルを未然に防ぐための講習会を実施し、各クラスでも状況の把握・指導を適宜行う。		A				
	部活動・生徒会活動の活性化	部活動の在り方を再考し、生徒の能力を最大限に発揮させるための場を作る。広報と連携して、部活動の状況を地域に知ってもらう。	/	A	A	部活動規定を作成したが、その徹底が不十分である。野球部の活躍により、地域の方からも中学校の先生からお声かけを頂いた。来年度はHPへの掲載を増やし、多くの方に活動を知っていただく。大きな行事後のアンケートは教員対象のものしか実施できなかった事が課題。専門委員の独自の活動が増えてきているので、さらに増やしていく。		
		体育大会・福高祭の内容を検討し、生徒会執行部・リーダーを中心に、生徒が主体的に取り組む機会にする。		B				
		リーダーの発掘と育成に力を入れ、体育大会・福高祭を筆頭に学校行事を充実させる。		A				
交通事故0・交通マナーの向上	登下校指導を実施し、交通マナーの意識を向上させ、交通事故0を目指す。	/	B	B	4月1日から自転車の交通違反に「交通反則制度」が導入されることを周知徹底させる。ヘルメットの着用や交通ルールの遵守を目標に、クラスへの情報提供や登下校時の声かけを徹底する。			
	安全教育講習会やバイク実技講習会を実施し、安全に関する意識の向上を図る。		B					
生徒育成部 (健康管理課)	生徒及び職員の心身の健康の保持増進	各種健康診断を実施し、年度当初における生徒および職員の身体状況の基礎的な把握を行う。	/	A	A	各部、各課、各学年のご協力により各種健康診断等が計画的に実施され、特段の問題等もなく終えることができた。次年度に向け、また計画通りの実施ができるよう準備を行う。また、各種学校行事、学年行事においても各生徒の安心・安全につながるための健康相談などを実施し、保健だよりを月一回発行し、健康や事故防止に向けた注意喚起を行う。	A	定期的な教育相談委員会の実施やSC、SSWとの連携による支援体制の構築など、安心して学校に通える体制づくりが図られている。
		学校・学年行事等に際して事前健康相談を実施し、生徒の心身状況を把握し報告する。		A				
		保健だよりを月1回発行し、健康や事故防止に関する注意喚起を行う。		A				
	学校管理下での事故防止及び美化の徹底	救急法(含む熱中症対策)講演会を実施し、部活動や体育的行事における安全対策を充実させる。	/	A	A	地球温暖化の影響による気温上昇から6月ぐらいから暑い気候が予想されるため、次年度も部活動生対象や体育的行事前に救急法講演会を行う。生徒美化委員会を中心に校内美化、環境整備に努め、学校全体として美化意識を持つようにする。また、様々な災害に備え防災避難訓練を実施し、危機意識の醸成を図る。		
		生徒美化委員会を中心に、校内美化と学習環境の整備を図る。		B				
		防災避難訓練を充実させ、防災意識の向上を図る。		A				
	担任・学年・教育相談委員会の連携・協力体制の確立	様々な問題を抱えた生徒に対し、学校全体で支援等を検討するために『教育相談委員会』をSC来校に合わせ月1回開催する。	/	A	A	今年度の教育相談委員会を月1回実施し、生徒個人ごとにおける様々な課題の報告並びに協議を行った。引き続きSCの先生にご協力を仰ぎ、生徒個々における様々な悩みなどに寄り添う支援体制を確立する。また、次年度も継続し、生徒の保健室利用の状況をクラス担任に随時報告し、SC・SSWなどによる相談事業も積極的に活用する。		
		生徒の保健室利用状況をクラス担任に毎日報告する。		A				
		SC・SSW・訪問相談員による相談事業を実施する。		A				

第1学年	基本的な生活習慣の確立	挨拶、5分前行動、入念な清掃といった基本的な規律を身に付けさせ、高校生としての自覚を持たせる。	学校生活アンケート いじめアンケート	B	B	多くの生徒は高校生らしい振る舞いが出来ているが、やや幼さが残る生徒がいる。教材の準備など、授業に臨む姿勢は多くの生徒が出来ている。一方、基礎学力に不安が見られる生徒、授業中の意欲が低い生徒、提出物の提出が滞る生徒が一定数おり、それらの生徒への指導が課題である。	A	教材の準備や授業に臨む姿勢など、基本的な学習習慣の定着が図られている。		
		始業時の教材の準備、授業の重要性、提出物の確実な提出、復習を意識付け、基本的な学習習慣および授業に取り組む姿勢を身に付けさせる。		B						
		生徒の観察、生徒とのコミュニケーション、いじめアンケートや学校生活アンケートの活用を通じて、生徒が前向きに学校生活に取り組める環境を整備する。		B						
	進路意識の高揚	学期に1回程度進路希望調査を実施し、面談週間の際に活用するなど、進路に向けた意識付けを図る。	学校生活アンケート いじめアンケート	A	A				B	進路希望調査は現在までに3回(5月、10月、12月)実施し、面談等で活用できている。進路ガイダンスや上級学校訪問における生徒の感想文の記述を見ても、進路意識が高まっている生徒も見受けられる。次年度は、進路達成のための学力向上、進路未決定者への個別フォローを重視していきたい。
		進路ガイダンスや上級学校訪問を通じて、生徒の進路選択の幅を増やすとともに、進路意識の高揚を図る。		A						
		進路希望調査や上級学校調べを通じて、生徒自身が進路に向けた情報を得る習慣と力を身に付けさせる。		B						
	学年団の相互協力と他学年・他分掌との連携	学年会などを通じて生徒の情報を密に共有し、生徒1人1人への細やかな指導を行える体制を整備する。	学校生活アンケート いじめアンケート	B	B				B	学年会は1～2週間に1回程度実施し、生徒情報の共有を図ることは出来ている。次年度は、他学年・他分掌との連携を強化し、円滑な学年運営に努めたい。
		他学年・学科間の連携を重視し、学校全体の活性化に努める。		B						
		各分掌との連携を密にし、職員団の円滑な業務遂行に努める。		B						
第2学年	学習習慣の確立と学力向上	明るく元気な挨拶をする、時間厳守(5分前行動)、遅刻厳禁、服装を整える、清掃を丁寧に、提出物を期限内に提出する、などの当たり前のことをできるようにし、そのレベルを引き上げる。	2学年生徒へのアンケートより。当たり前のことをできている、少しかけていて、回答した生徒が75%。	A	B	多くの生徒が当たり前のことをおろそかにせずしっかりやろうとしている一方で、なかなかできない生徒が一定数いるため、全体として大きな格差が生じている。できない生徒への指導の在り方を見直す。	A	オープンキャンパスや寸呂ガイダンスなど、進路意識向上のための情報共有や機会の確保が図られている。		
		教室整備を行い、授業前の黙想に十分な間をとらせ、心を落ち着かせて授業に臨ませるなど、授業に集中できる環境や雰囲気を整える。		B						
		授業内容や家庭学習の充実を図り、成績向上を目指すとともに、成績不振者への個別指導を担当と教科担任が連携しながら行う。		B						
	進路目標の早期設定、進路実現に向けて	生徒自らが情報収集できるように、方法等を指導する。	オープンキャンパスワークブックを夏の課題として配布、担任回収して確認した。進路ガイダンス後の作文内容確認。	A	B				B	オープンキャンパスや進路ガイダンス等を通して進路について考えることができていた。1年次には進路が定まっていなかった生徒も、少しずつ進路目標を持つようになり、進路意識が高まっている。職業体験の進路ガイダンスは特に良かった。次年度は進路実現に向けて、担任副担任、キャリア教育部と情報を共有・連携し、正確な進路指導を行う。
		進路ガイダンスの充実、オープンキャンパスへの積極的な参加を促し、リアルな体験をさせることで生徒の進路意識の向上を図る。		B						
		スタディーサポートや進研模試などの外部模試を利用し、生徒の学習状況を把握しながら、二者・三者面談の充実を図り、多様な進路目標の実現に繋げる。		B						
	安心安全な学年・学級づくりと学年団のチーム化	価値観の違いを認め合い、互いの個性を尊重し合えるように教師自ら率先して行動するとともに、常に人権を意識した発言を行う。	いじめアンケートの記述や相談等において	B	A				A	大きなトラブルは起きていないが、人間関係に悩む生徒はいた。担任が相談にのり、スクールカウンセラーに協力してもらいながら気持ちを落ち着かせていった。言葉使いが荒い生徒や、SNSで使用された言葉を考えなしに使うような生徒に対して、指導を個別にしていく。
		アンケートや生徒の様子をしっかりと観察するなどして、いじめのない安心・安全な学年・学級づくりをする。いじめは絶対許さないというメッセージを教師が発する。		A						
		学年団全員で生徒の学習指導、生徒指導、進路指導にあたる。		A						

第3学年	生徒の学力向上と進路実現	教室整備・チャイム席・授業準備・課題提出の期限厳守を徹底し、学習に集中できる環境を整える。	(服装頭髪検査) 違反者20/142 前回(10月)より減	B	B	基本的な生活習慣がなかなか身につかない生徒が一定数いたが、指導を重ねた結果、少しずつ改善が見られた。学年・科目担当教員の呼びかけもあり、挨拶や時間・提出物に対して意識を持つ生徒が増えた。早期より進路を意識し、家庭での学習時間が増えた生徒が多く見られ、進路実現に繋がった。チャイム席、黙想などの授業に対する姿勢は、全てのクラスで良好な状況である。	A	生徒の学力向上や進路実現に向けて家庭学習時間の確保や相談支援体制の充実が図られている。		
		ガイダンスの実施・外部模試の利用分析・オープンキャンパスへの参加を促すことを通じて、生徒の学力状況・進路目標を把握しながら、二者・三者面談の充実を図り、多様な進路実現に繋げる。		B						
		朝夕の学習スペースの確保・整備を行い、1日の学習時間平均100分を目指す。		A						
	学年の団結とリーダーの育成	挨拶する、時間を守る、規則を守ることを徹底し、自身のことを責任をもって行動できるようにさせる。	(学習時間調査11月) 117(分/1日) 過年度(97分)及び前回 (111分)より増	B	A					
		学級活動・部活動・学校行事において、生徒自身に運営・進行を任せ、リーダーとして仲間のために率先して動ける人材を育成する。		B						
		学校行事・生徒会活動・部活動等の意義や目的を理解させ、生徒全員が意欲的に参加できるようにする。		A						
	応援される学年に	学年教員団全員が、学年生徒の学習面・生活面の指導をする意識を持ち、実践できるよう、的確なアドバイスや助け合いを行う。	(学校生活アンケート8月) 学校生活が楽しいと感じる生徒133/142 前回(5月)より増	A	A				大きなトラブルはほぼなかった。アンケートを通じて保護者からの要望や意見が出た際は、迅速に保護者との面談を設定し、話し合うことができた。また、生徒との良好な関係を担任・副担任を中心に築けており、が相談しやすい環境を形成できた。生徒と保護者の状況を、学年全体で共有することが大きな鍵になる。	
		学校生活アンケートやいじめアンケートなどを通して、気になる生徒の教育相談を行うなど、いじめのない安全・安心な学年・学級づくりをする。		A						
		保護者と密に連絡を取り合い、生徒の出席状況、成績、学校での様子、家庭での様子等、相互に把握し、生徒の精神的安定や進路指導に繋げる。		A						
総合ビジネス科	資格取得の推進とそれを生かした進路実現	高度な資格取得として、日商簿記検定2級を10名、ITパスポートを5名の合格者を目指す。	(授業アンケート) 目標とする資格の取得率が1・2年生で85%以上を達成できた。3年生の全商3種目以上合格者は60%であった。	B	B	検定前課外や土曜講座等で、資格取得の結果を出せた生徒が多く、目標の90%は達成することはできなかったが、85%以上の合格者を出すことができた。資格取得により四年制大学の校長会推薦や総合型推薦入試などにより、多くの進学者数を増やすことができた。	A	社会人講師を招いたビジネスマナー講座や久留米大学との共同授業など効果的なキャリア教育が実施されている。		
		全商の検定2・3級は、合格率90%を目指す。また、3年生で全商1級3種目以上の人数を70%達成する。		B						
		資格を生かして国公立大学、公務員、地元優良企業などの進路を推進する。そのためにキャリア教育部と連携しながらサポートを行う。		A						
	キャリア教育と地域社会との連携	各学年に応じて進路目標の明確化を図り、体験活動やキャリア教育を推進し、生徒の勤労観・職業観を育成する。	(授業アンケート) コース別の校外学習が、良い経験になり、進路決定に繋げることができた。	A	A					社会人講師を招き、ビジネスマナーを学び、倫理観を養うことができた。また、久留米大学との協同授業では、商学や経済学の専門的な内容を大学生と学ぶことができ、進学意欲を高めることができた。学校設定科目や課題研究の校外実習では、地域と触れ合う活動ができ、体験的な学びとなった。
		学科の行事を経験しながら、地域経済の発展に関心を持たせ、生徒自身が成長できる環境づくりをする。		A						
		地域の祭りや販売イベントに積極的に参加し、体験的な学びを経験し、その学習成果を学科発表会で発表し、意識を高める。		A						
	広報活動によるイメージアップ	各学年の学習活動や進路状況を「総合ビジネス科ニュース」として本校SNSで発信する。	/	A	B				総合ビジネス科通信を発行し、保護者や中学生向けに、総合ビジネス科の学校での様子を知らせることができた。体験入学では、新たに簿記や観光ビジネスの模擬授業を在校生とともに作り上げ一体となって生徒募集に力を尽くした。商品開発では提携企業を増やし様々なオリジナル商品を開発できた。	
		「福高総ビといえば〇〇」という目玉となる商品開発やイベントなどを確立する。		C						
		アンケートやリサーチを元に授業や体験入学の改善を行い、ビジネス教育は楽しいというイメージを周囲に持たせる。		B						

生活デザイン科	実践的・体験的な学習活動の重視とコース制における専門性の向上	専門性の向上を目指して実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を重視し、生徒の意欲が高まる授業改善を図る。	家庭科技術検定合格率(1月現在) 被服製作65%・食物調理98%・保育製作100% ものづくりマイスター実技指導アンケート(11月) また受講したい 20名中20名100%	A	A	各コースにおいて専門性を目指した実践的・体験的な授業を展開することが出来た。家庭科技術検定で培った知識や技術を活かして、新たな学びに繋げていく。専門科目や検定の指導の統一化と指導力の向上が求められる。社会人招聘事業においては、適切な実施時期を見直す。	A	実践的・体験的な授業の展開により、専門性の向上が図られている。また、キャリア教育の充実により進路実現につながっている。
		家庭科技術検定では、技術力の向上と挑戦する力を培い、合格率90%以上を目指す。教師の指導力向上と指導の統一化を図る。		B				
		社会人招聘事業やものづくりマイスター事業などを活用して専門性の高い学びの場を設定し、生徒の適性の追及を目指す。		A				
	専門学科の特性を生かした進路実現とキャリア教育の充実	キャリア教育等を通して進路目標の明確化を図り、生活産業を担う意識の確立と適性に応じた進路実現を目指す。	3年1組進路実績(1月現在) 就職・進学25名受験 採用・進学決定25名	A	A	学科の行事を通して、生徒に多様な学びの場を設定することが出来た。専門的な学びを社会的・職業的自立に結び付け、職業人としての自覚と生徒の適性に応じた進路指導を目指す。主体的な態度を身に付けた人材育成を行い、社会で活用出来るコミュニケーション力や課題解決力を培わせる。		
		学科の行事を通して、自他を認め、社会や地域に貢献する志を持たせ、粘り強く学び続ける力を育成する。		B				
		学校設定科目「八女茶探究」「生活教養」を中心とした協働学習を推進することで、生徒の主体的な学習活動を充実させる。		A				
	地域社会への新たな貢献と広報活動の可視化・生徒募集の広域化	地域行事や地域交流の新たな在り方を検討し、外部機関との連携を強化して校外活動の充実を図り、社会に貢献する人材を育成する。	令和7年度NPO法人こもれびのいえ保育交流事後アンケート(12月) 保育実習が学びに繋がった19名中18名(94%)	A	A	中学校体験授業、出前授業、授業支援など中学校からの要望に応えると共に、生徒募集に繋がる効果的な学科のPRが出来た。また、県教育委員会や地域からの依頼や協力要請も多く、計画的な準備と予算の確保が課題である。これらの取組を学科の魅力ある広報活動に繋げ、幅広く発信していく。		
		毎月の学科新聞発行やHP更新など広報活動を積極的に行い、特色ある学科の活動を可視化して情報発信に取り組む。		B				
		進路相談事業・中学校の出前講座・体験入学等を活用し、生活デザイン科における生徒募集を広域かつ積極的に実施する。		A				

#### 自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変な教育活動の中で、しっかりと取り組んでいると感じた。いじめ対策についてもしっかりと取り組んでいて、学校全体の教育に対する強い熱意を感じた。</li> <li>・具体的方策では数値目標を設定して、達成状況を確認しながら業務を行うとより効率的になる。</li> <li>・HPやSNSの使い分けをして、学校のアピールに力を入れていった方がよい。</li> <li>・多様な個性を持つ仲間と体験的な学びを通して、地域と関わりながら、「正しく強く美しく」生きる力を身に付け、スクールミッションにもある社会に貢献しようとする志を持てるように、学年を追うごとに生徒たちが成長している様子を確認できた。</li> <li>・いじめについて、4件の事案を早期発見し、生徒たちが相談できる環境が十分にできていることに驚きました。隠したがる年代だと思いますが、生徒と先生方との信頼関係によるものだと思います。</li> </ul>
---

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
特になし	